

病虫害発生予察特殊報 第1号

害 虫 名 : ツマジロクサヨトウ
学 名 : *Spodoptera frugiperda* (J.E.Smith)
作 物 名 : 飼料用とうもろこし、スイートコーン、
ソルガムなど

1 発生確認経過と国内での発生状況

国が指定している重要病害虫であるツマジロクサヨトウの県内侵入警戒のため、県内5ヶ所に設置したフェロモントラップの内、7月中旬に回収した2ヶ所において、本種雄成虫とみられる個体が捕獲された(図1, 2)。農林水産省名古屋植物防疫所に同定依頼したところ、ツマジロクサヨトウであることが確認された。

本種は、国内においては令和元年7月に鹿児島県で初めて発生が確認され、昨年は西日本を中心に21の府県で発生が報告されている。

本年も既に26県で発生が報告されており、近隣では、千葉県、神奈川県、新潟県、岐阜県、富山県、石川県、福井県等で報告されている(農林水産省発表。令和2年7月15日現在)。

なお、県内では現在、農作物における本種幼虫の発生および被害は確認されていない(令和2年7月15日現在)。

2 形態

- (1) 成虫は開張約37mm、雌雄で外観が大きく異なり、雄のみ前翅中央部に黄色い斜めの斑紋と翅端に白紋を持つ。後翅は白色で外縁付近のみ黒く染まる(図3, 4)。
- (2) 終齢幼虫の体長は約40mmで体色は緑色~褐色と多様(図5)。頭部に網目模様があり、頭部縫合線に沿って淡色になるため逆Y字状に見える(図6)。また、尾部に黒色斑点を持ち、体の表面は滑らかでトゲ等はない(図7)。
- (3) 卵は寄主植物に塊状に産み付けられ、雌の体毛で覆われる。

3 生態と被害

- (1) 南北アメリカの熱帯、亜熱帯地域原産で、とうもろこし、ソルガム、さとうきび、野菜類等、80種類以上の作物に被害を与えること、1世代で500km、1晩で最大100km移動するなど長距離飛翔することが知られている。
- (2) 国内では、とうもろこし(飼料用、緑肥用及びスイートコーン)、ソルガム(飼料用、緑肥用)、さとうきび、もちきび、イネ科牧草で幼虫による食害が確認されている。
- (3) 暖地に適応した種で、熱帯では年4~6世代発生するが、亜熱帯や熱帯地域以外では1~2世代になる。暖地を除く地域では越冬することができないとされている。
- (4) 摂食量が多く、多量の糞が散在する。

4 防除対策

- (1) 飼料用とうもろこし、ソルガム、スイートコーンで多く見ついていることから、これらの作物については、ほ場を定期的に見回り早期発見に努める。
本虫と疑われる幼虫を発見した場合には、速やかに農業農村支援センターまたは病虫害防除所まで連絡する。
- (2) 収穫期の飼料用とうもろこしについては、本虫の分散を防ぐため、早期収穫に努めるとともに、速やかに収穫後の残渣をすき込む。
すき込みの実施に当たっては、植物体を破碎し、幼虫やさなぎを土中深くに埋没するよう、

土の表面に作物が見えなくなるまで深くすき込み(深さの目安 12cm 以上)を2回以上行う。
(3) 本種の発生が確認された場合、ツマジロクサヨトウに対する登録農薬はないが、県は植物防疫法第 29 条第 1 項の規定により、国が指定する薬剤の散布指導を行う（農林水産省ホームページ「ツマジロクサヨトウに関する情報」の「防除対策について」を参照）。

http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html



図 1 フェロモントラップで捕殺された雄成虫



図 2 フェロモントラップで捕殺された雄成虫



図 3 雄成虫（標本）



図 4 雌成虫（標本）



図 5 幼虫（標本）



図 6 幼虫頭部の網目模様と逆Y字（標本）



図 7 幼虫尾部の黒色斑点（標本）

長野県病害虫防除所 中南信担当
TEL : 0263-53-5642 (直通)
FAX : 0263-54-4508
E-mail : bojo-y@pref.nagano.lg.jp